

浅野中学校

算数

確かな計算力と図形の性質や立体図形を平面図形に置き換えて考える力、数の仕組み、ルールに基づいてきちんと数え上げる力、グラフを読み取る力が大切で、問題を解いていく過程の理解を心がけて学習していくことが必要です。いたずらに難しい知識は必要なく、きちんと考えることができれば、解ける問題を出題しています。問題を解いていくときに、手を動かしながら考えていく習慣を身につけてほしいと思います。これは、中学入試で「考え方と式」の欄を設けている理由でもあります。また、数字はきちんと書くように心がけてください。

国語

第1問では、漢字をきちんと勉強してきた受験生であれば得点できるような出題を心がけています。漢字自体はそれほど難しくありませんが、語彙力がないと正答できない問題も出題しています。小説・評論文とも、傍線部をていねいに解釈できる力と本文全体の主張を正確に押さえる力の両方が必要となります。日ごろの学習では、問いの求めるところを正確に理解し、それに相応した答えを記述することを心がけてください。

理科

2018年度は、第1問は消化器官についての問題（生物分野）、第2問は生物と環境に関する問題（生物分野）、第3問は地層と岩石の観察に関する問題（地学分野）、第4問は溶解熱と中和熱に関する問題（化学分野）、第5問は相対速度とドップラー効果に関する問題（物理分野）というように、理科4分野は必ず出題します。範囲が広くて、勉強するのは大変だと思いますが、苦手な分野を作らないことが重要です。理科の計算問題は小数で解答するのが一般的で、割り切れない場合は四捨五入などをする必要があります。問題の指示に注意をしてください。2019年度より、図表に関してはカラーで出題することもあります。

社会

2018年度は、第1問は日本美術の海外への影響を考える問題（歴史分野）、第2問は食文化から見る地域性を考える問題（地理分野）、第3問は日常生活と経済とのかかわりに関する問題（公民分野）、第4問は上杉謙信の出兵時期とその意図に関する論述問題を出題しました。2017年度に比べて問題の分量と解答箇所を減らしたのは、時間をかけて、きちんと第4問の記述に取り組んでほしいというメッセージです。与えられた情報をもとに、設問の要求にきちんと答えられるようにすることはとても大切です。一つひとつの事柄について、背景や因果関係なども含めて「深く」理解をしておいてほしいと思います。一方で、解答箇所が減少したことで1問の配点が増えたので、簡単な問題での誤字・脱字やミスをし

ないように心がけてください。2019年度より、図表に関しては問題をカラーで出題することもあります。

鎌倉学園中学校

算数

1～3次試験はいずれも大問8題で、標準的な問題が中心です。簡単な問題も難しい問題も、同じ4点の配点なので、簡単な問題を正確に解くことが大切です。総合問題は、(1)が基本問題で、(2)は(3)を解くためのヒントや注意になっている場合があります。出題傾向は大きく変わらないので、過去の問題をよく演習してください。ただし、「算数選抜」については、すべてが記述式の問題です。考え方を図や途中式で記述してください。

国語

大問5題で、構成は例年と同じです。漢字は教育漢字の範囲内で、読み・書き各5問、配点は10点。長文読解は、「小説・随筆、または、詩とその鑑賞のような内容の文芸的文章」「物事を論ずる内容の論理的的文章」の2題で、合わせて80点です。選択、抜き出し、または空欄補充の問題がほとんどです。指示語、接続語、ことばの意味、心情や情景の読解、趣旨の読み取りなど幅広く出題します。また、2017年度より1～3次のすべての回で、30～60字程度の記述問題を出題しています。本文の内容について設問の指示に従ってまとめるという問題を予定しています。最後は、熟語・文法・慣用句・ことわざなどで、配点は10点です。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題し、原則として1問2点（完答、あるいは4点配点もあり）です。選択問題が中心で、用語記入や計算問題もあります。実験や資料からの考察問題は時間配分に注意してください。物理は力のつり合い、電流のはたらきなどから、化学は物のとけ方、気体の性質、物質の状態変化などからの出題です。生物は植物、動物、昆虫のからだのつくりを中心に出题します。地学では気象・天体・地層などから出題しています。

社会

配点は、地理・歴史が各22点、公民が16点です。簡単な論述問題もあります。地理は、日本の自然、産業、各地方、日本と世界の結びつきなどから出題します。歴史は、古代から近現代まで、まんべんなく整理しておくといよいでしょう。各時代の特徴をつかむことが大切です。人名・歴史的イベントは漢字指定となっています。公民では、近年起こった政治・社会問題も出題することがあります。日ごろから「現在、日本の政治で何が問題なのか」と考えながら、ニュースや新聞に接するとよいでしょう。地理・歴史・公民ともに、時事問題に関心を持ちながら、基本事項を学習しておけば得点源になります。

サレジオ学院中学校

算数

基礎的な知識、計算力、思考力を総合的に見ます。分野の偏りがないように、各分野まんべんなく出題するように心がけています。大問は5題で、計算問題、図形、特殊算に関する問題などを出題します。途中の過程や理由を書く問題を出題するので、図や式やことばを用いて、考え方がわかるように解答してください。

国語

漢字問題では、豊かな言語感覚が日常生活で身につけていることが重要になります。読解問題では、論理展開や登場人物の心情の変化などが、しっかりと読解できているかを判断できる出題を心がけています。出題分野は「漢字書き取り」(10問)、「漢字読み」(5問)、「説明的文章の読解問題」(7~8問程度)、「物語の読解問題」(7~8問程度)の大問4題です。誤字・脱字・引用の不正確なものは減点の対象です。記述で答える場合、結論だけでなく、説明の根拠、記述の的確さなどが採点基準となります。

理科

知識・計算・図表の分析などを幅広く問います。時間内に標準的な問題をきちんと解く力を求めています。大問は4題で、物理・化学・生物・地学の4分野から、ほぼ均等に出题します。身の回りの自然現象についての説明を読んで考える問題や、実験のグラフや表を読み取って規則性を見つけ、計算する問題なども出題します。記号・語句・数値・記述など指示された形式で答えてください。計算結果については、単位も含めて解答させる場合もあります。

社会

基本的な問題を中心に、基礎力と組み合わせた発展問題、興味・関心を問う実力問題を出題します。時事的な話題や、統計・資料や選択肢の文を読み取って考える問題も出題しています。2018年度までは大問が3題で、地理・歴史・公民の3分野から出題していましたが、2019年度より大問1題に3分野を統合します。配点は各分野25点、合計75点満点で変更はありません。学校で学習することだけでなく、生活の場で得られる知識に関して出題することもあります。地名や人名・用語など漢字指定の問題が多くあります。漢字指定の問題では、漢字間違いや、かな文字の解答は減点の対象となります。

逗子開成中学校

算数

四則演算の正確さ、計算法則を用いて工夫して計算できるか、各分野の基本的事項、そして基本的事項を組み合わせた少し複雑な問題に対応できるような思考力・読解力を習得しているか、などを問います。なお、ことばや数式を用いて、論理的に自分の考えを表現する問題も必ず出題しています。そのような記述問題には慣れておいてください。

国語

漢字の読み書きや語句の意味などの語彙力、文章を論理的に把握する読解力、読み取った内容についてさまざまな観点から考える思考力、的確に説明する表現力などを問います。記述問題では、いかに部分点を取るかが重要です。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野に偏りがないように出題しています。各分野の基礎力を十分に養ってください。また、環境問題や理科に関する時事問題を出題する場合があります。日ごろから科学に関心を持ち、ニュースや新聞などを通じて、現代社会で起きている科学的事項に触れ、基本的内容に関心を持ってもらいたいと思います。大問の前半部分の問いは、ほとんど基礎事項を問う内容です。ここでしっかり得点を取り、発展的内容の問いをできるだけ解くことが大切です。文章で答える記述問題では、キーワードを落とさぬよう注意してください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から偏りなく、基本問題を中心に出题します。入試問題では、文章や統計データ（グラフ・表）を読み取る力、ある事象について知識を複合的に用いて考える力、重要語句を正確に書く力、筋道を立てて説明する力がどれくらいあるかを測ることができるよう作問しています。着実に各分野の基礎・基本を学習していくことが大切です。また、丸暗記ではなく、覚える語句にどのような意味があるのか、どのような事柄と関連しているのか、日ごろから意識して学習しておいてください。

横浜中学校

算数

①は基本的な計算が10問、②はさまざまな分野から小問を9問出題します。③は文章題です。途中式や考え方を書く設問もあり、たとえ答えに至らなくても、部分点を与えるので必ず記入しておいてください。

国語

大問は4題で、読解が2題、漢字と語句に関する問題が1題、100字の作文問題が1題です。作文問題には部分点があるので、完全でなくても、必ず答えを書くようにしましょう。

理科

大問は4題で、物理・化学・生物・地学の4分野からほぼ均等に出題します。図やグラフ・実験・観察を含めた基本問題が中心です。時事的問題も出題します。

社会

地理・歴史・公民分野を融合させた基礎力を問う問題が中心です。地図や図表、統計資料の読み取り、時事問題も出題しますので偏りのない勉強が必要です。

適性検査型試験

適性検査Ⅰでは、人文・社会科学系（国語・社会）の問題を中心に試験します。主に文章の内容を分析して表現する力や、データの情報を読み解く力を見ます。適性検査Ⅱでは、数理・自然科学系（算数・理科）の問題を中心に試験します。数学的な思考・判断力や、実験・観察のデータをもとに分析・考察する力を見ます。